

農業農村工学会【学術賞】3分スピーチ原稿 (2016年8月30日) 溝口勝
農業農村工学における ICT の応用に関する一連の研究
Studies on the application of ICT in Agriculture and Rural Engineering
(学会事務局から今年の受賞講演は1人あたり3分厳守と言われていた)

(カップ麺をテーブルに置く)

私の学会デビューは32年前の8月。ここ仙台でした。その懇親会で出会ったのが~~そこに座っている~~女房です。~~今日は家族で来てくれました。~~まずはこれまで私のわがままで苦勞をかけた家族、特に、子供たちを育ててくれた女房のお母さまに感謝します。

初めての学会発表で、岩田進午さんと pF の理論式について議論になったのを思い出します。三重大大学の助手になり、凍土の実験とシミュレーションで D 論を書いた後に、シベリアのフィールドに出会い、現場でデータを取ることの難しさを知りました。

この当時、私は、土壌物理の、凍土の理論家になるつもりでした。しかし、インターネット時代の幕開けとともに、一方で、Web システムを独学で学び、いろんな遊び道具を作りました。

その一つが「フィールドモニタリングシステム」です。これは電源のない世界中のフィールドから現地画像を含む複数のデータを自動取得する道具です。これによりフィールド調査が劇的に楽になりました。

また、ユーザがパラメータを入力するだけで計算結果を得られる Web システムを作り、専門分野以外の研究者でもシミュレーションを実行し、インターネット上で確かめられるようにしました。

いま学会員が利用している講演要旨検索システムを作ったのも20年前でした。

いまにして思えば、インターネット技術を使って、あったらいいな、と思ったシステムを作って遊んでいただけでした。

それなのに今回、「ICT の応用」という切り口で「学術賞」に選んでくださった選考委員会の方々に感謝します。また、学部時代に、研究のきっかけを与えてくださった東大地水研の白井教授・中野助教授・井本技官、先輩・後輩諸氏、そして、一緒に研究を楽しんでくれたオタク仲間と学生たちに感謝します。

大切なのは出会いの積み重ねです。若い学生諸君は是非、その一瞬・一瞬の出会いを大切にしてください。

最近、プロジェクトだ、国際化だ、競争的資金だ、と、自由な研究をするのが難しくなっています。私たちの世代がそうした社会にしまわされてきたのかも知れません。

しかし、新しい時代はいつも若者の柔軟な発想から生まれます。若い皆さんにとっては評価を気にしなければならない環境になってしまっていますが、それでも、その評価枠を超えた遊び心のある研究を大切にしてください。

福島除染の話など、本当はまだ話したいことはありますが、そろそろ、トムヤンクン味のカップヌードルが伸びてきているので私の受賞講演を終わりとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。